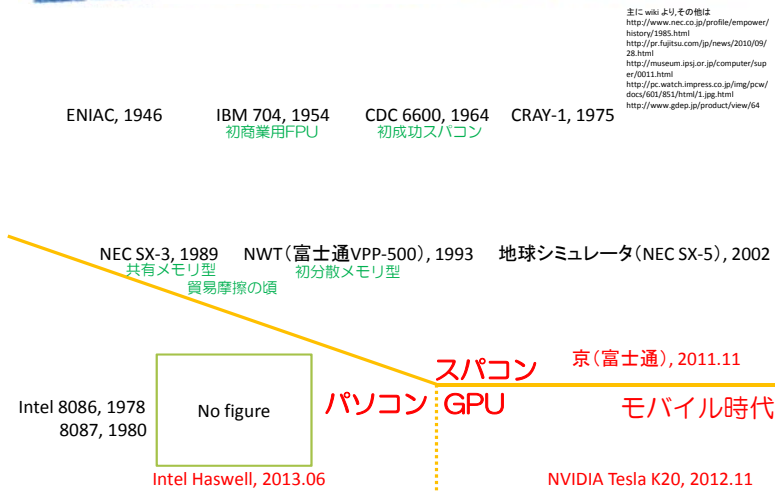


# デジタル計算機の歴史



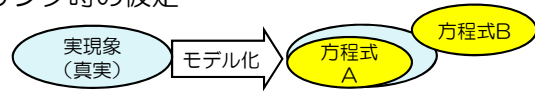
# 静的FEM解析を支える数値計算法

- ◆ 最終帰結先：代数方程式の求解法
  - 線形解析：  
 $Ax = b$  の求解
  - 非線形解析 (荷重増分)：  
 $r(x) = 0$  を逐次線形化して求解
- ◆ (偏)微分方程式の近似求解法
  - 求解すべきスカラー場・ベクトル場の未知関数を離散化：  
「場」を節点値で補間 (近似)
  - 最良近似問題を構成：  
各点でなく領域全体 (積分) で

サイバネット ANSYSベース

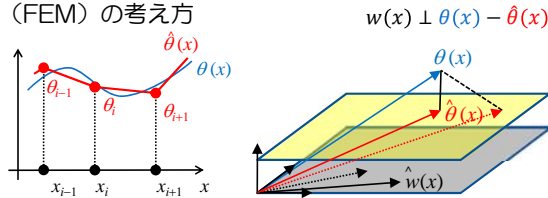
# CAE計算に潜む (誤差) 4

## 1. 数理モデリング時の仮定



## 2. (偏)微分方程式の近似求解

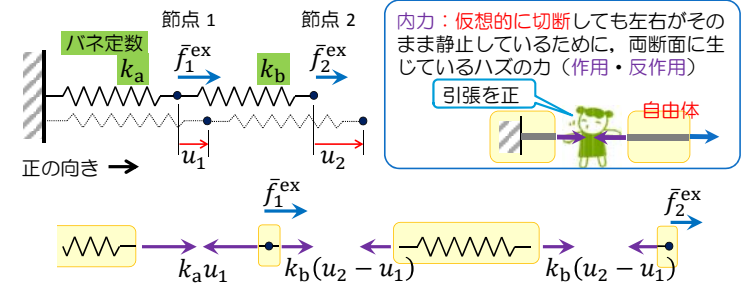
- 場の節点値による補間 (要素選択)
- 最良近似 (FEM) の考え方



## 3. 浮動小数点数計算

## 4. ひずみ・応力のキレイな可視化

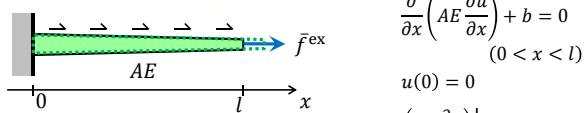
# マトリクス構造解析の概略



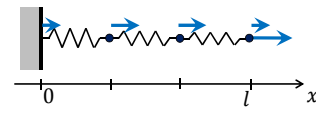
- ◆ 節点1の静止条件： $(-k_a u_1) + k_b(u_2 - u_1) + \bar{f}_1^{ex} = 0$
- ◆ 節点2の静止条件： $(-k_b(u_2 - u_1)) + \bar{f}_2^{ex} = 0$

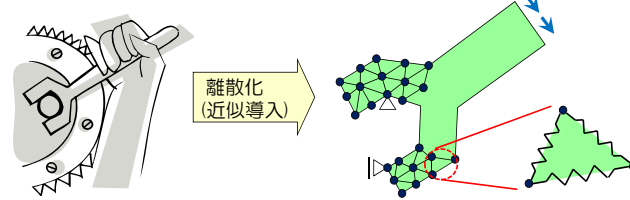
$$\Rightarrow \begin{bmatrix} k_a + k_b & -k_b \\ -k_b & k_b \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} u_1 \\ u_2 \end{Bmatrix} = \begin{Bmatrix} \bar{f}_1^{ex} \\ \bar{f}_2^{ex} \end{Bmatrix}$$

# 有限要素解析 (FEM) の超概略

◆ 1-D 

無限でなく有限な要素に分割

離散化 (近似導入) 

◆ 2-D 

離散化 (近似導入)

# 一般的な連立1次方程式の場合

例) 
$$\begin{bmatrix} 7 & -2 & -1 \\ -2 & 4 & -2 \\ -1 & -2 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 4 \end{bmatrix} \quad \mathbf{Ax} = \mathbf{b}$$

- ◆ 実は  $\mathbf{A} = \mathbf{LU}$  (下三角行列・上三角行列) に分解可能
  - あとは  $\mathbf{y} = \mathbf{L}^{-1}\mathbf{b} \rightarrow \mathbf{x} = \mathbf{U}^{-1}\mathbf{y}$  すればよい
- ◆ 「LU分解」
  - 「ガウスの消去法」や「掃出し法」による式変形の変種
  - 非常にシステムチック・機械的 → 計算機向き
  - 補足: 対称行列にはコレスキ分解, LDL<sup>T</sup>分解がおススメ

# 上三角行列 U をつくる (ゼロ増やせ)

第1ステップ

第1行を(-2/7)倍して、第2行から引く

要は、2/7して足す

下にゼロが出てきた

$$\begin{bmatrix} 7 & -2 & -1 \\ -2 & 4 & -2 \\ -1 & -2 & 3 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 7 & -2 & -1 \\ 0 & \frac{24}{7} & -\frac{16}{7} \\ 0 & -\frac{16}{7} & \frac{20}{7} \end{bmatrix}$$

第2ステップ

$-\frac{2}{3}$

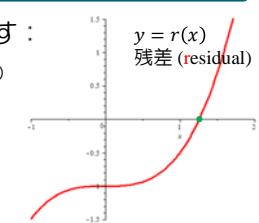
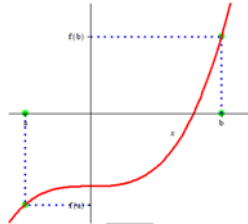
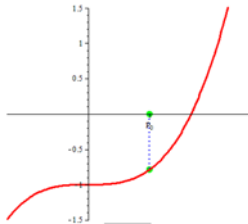
$$\begin{bmatrix} 7 & -2 & -1 \\ 0 & \frac{24}{7} & -\frac{16}{7} \\ 0 & \frac{16}{7} & \frac{20}{7} \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 7 & -2 & -1 \\ 0 & \frac{24}{7} & -\frac{16}{7} \\ 0 & 0 & \frac{4}{3} \end{bmatrix}$$

# 非線形方程式の反復求解法

例題)  $r(x) \equiv x^3/2 - 1 = 0$  形式的には  $x = \sqrt[3]{2}$  ですが...

$y = r(x)$  と  $y = 0$  の交点を四則演算で探す:

- ◆ 2分法 (bi-section, はさみうち, 半分の半分...)
  - 大域的求解法, 低速: 初期値は自由
- ◆ ニュートン・ラフソン (NR) 法
  - 局所的求解法, 高速: 初期値に近似解が必要 (バリエーション: 修正NR法, 割線剛性法)

## 発展：Two-bar truss 問題

- 左側barの微小ひずみ：

$$\varepsilon_L = \frac{\sqrt{(L_L + x)^2 + (H + y)^2}}{\sqrt{L_L^2 + H^2}} - 1$$

- 右側barの微小ひずみ：

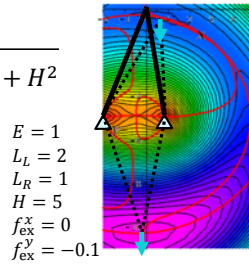
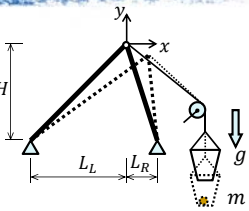
$$\varepsilon_R = \frac{\sqrt{(L_R - x)^2 + (H + y)^2}}{\sqrt{L_R^2 + H^2}} - 1$$

- 弾性エネルギーの合計：

$$\Pi_{in}(x, y) = \frac{1}{2} E \varepsilon_L^2 \sqrt{L_L^2 + H^2} + \frac{1}{2} E \varepsilon_R^2 \sqrt{L_R^2 + H^2}$$

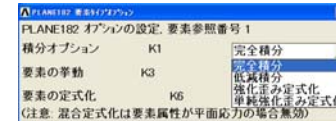
- 内力：

$$\begin{Bmatrix} f_{in}^x \\ f_{in}^y \end{Bmatrix} = \begin{Bmatrix} \frac{\partial \Pi_{in}}{\partial x} \\ \frac{\partial \Pi_{in}}{\partial y} \end{Bmatrix}$$

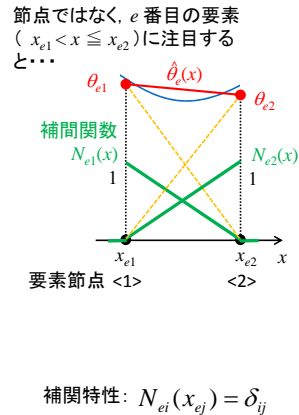
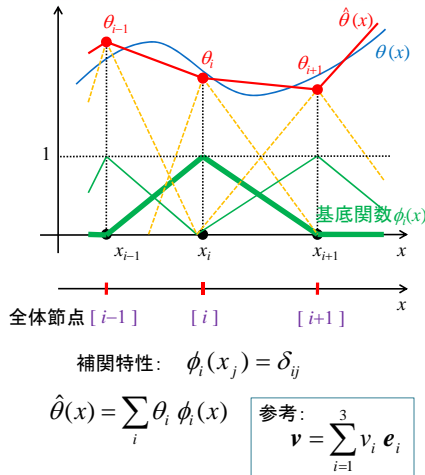


## 本章とCAEの関わり ~要素を特徴づけるもの~

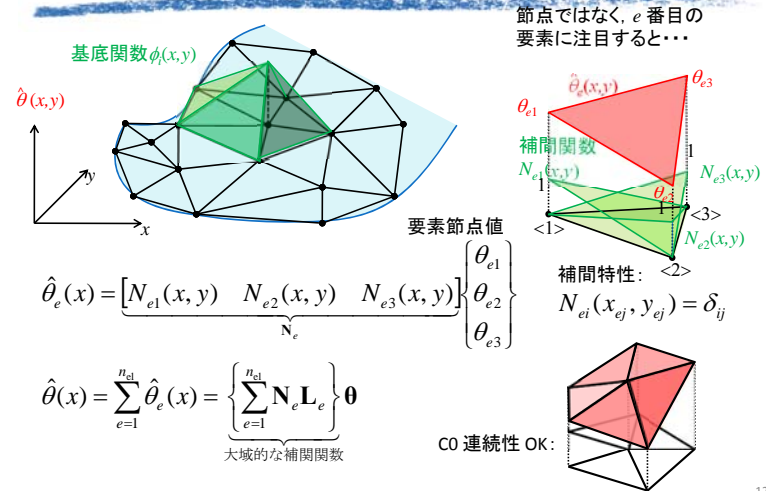
- 有限要素法や境界要素法では、「要素」なる概念があります。さらに「ガウス積分点」なる概念もあります。
  - 例) 形状や次数
  - 例) 次数低減積分
- 応力は要素間で不連続となるほうが正しい
  - ・ 現在はデフォルトで平滑化されることが多いようですが...



## 折れ線 (区分1次) 関数による補間法(1)



## 2-D スカラ場の区分1次補間

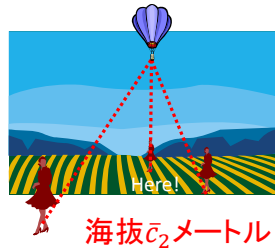


## ユークリッド空間での最良近似問題

問：高原（海拔  $\bar{c}_2$  メートル）で、気球に最も近づける点はどこですか？

答：気球の直下（気球から高原に下した垂線の足）

- ◆ これを数学的にどのように記述するか？ それが、ここでの主題です。⇒「最良近似問題」
- ◆ 考え方は2つ



## 関数 $f(x), g(x)$ の直交性と距離の定義

区間  $a \leq x \leq b$  における

- ◆ 直交性（内積  $(f, g) = 0$ ）

$$\int_a^b f(x)g(x)dx = 0$$

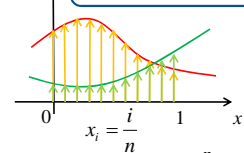
- 例：  $\int_{-\pi}^{\pi} \cos x \sin x dx = 0$

- ◆ ある種の距離（ノルム）

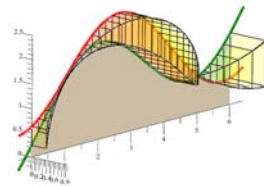
$$\sqrt{\int_a^b (f(x) - g(x))^2 dx}$$

- 分散・偏差の極限
- 図化：チューブの体積

「定義」とは、素直に受け入れるべきもの。

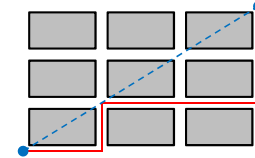


$$\int_0^1 h(x) dx = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n h(x_i)$$



## ノルム（距離）の定義は実に色々

ユークリッドノルム（直線距離）だけを距離と思い込んでしまうと、大変です。



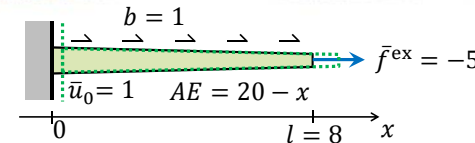
例1：最寄駅から自宅までの距離を聞かれたら、直線距離（数学）でなく、道のり（経験）で答えるでしょう。

例2：京都の基盤の目は、街区距離

例3：東京からブラジルまでの距離（直線 or 球体上）

例4： $\|x\|_p \equiv \sqrt[p]{|x_1|^p + |x_2|^p + \dots + |x_n|^p}$

## 古典的最良近似の例



- ◆ 厳密解： $u(x) = 1 + x + 17 \ln\left(1 - \frac{x}{20}\right)$

- 1次関数：

- $\hat{u}(x) = 1 + c_1 x$   $c_1 = -\frac{1}{16}$

- $\hat{w}(x) = w_1 x$

- sin 1/4波：

- $\hat{u}(x) = \cos\left(\frac{x}{16}\pi\right) + c_1 \sin\left(\frac{x}{16}\pi\right)$   $c_1 = \frac{2(\pi^2 - 10\pi + 32)}{\pi(\pi^2 + 1)}$

- $\hat{w}(x) = w_1 \sin\left(\frac{x}{16}\pi\right)$

